

◎アメリカ合衆国の地先沖合における漁業に関する日本国政府とアメリカ合衆国政府との間の協定の有効期間の延長に関する交換公文

(略称) 米国との米国地先沖合漁業協定の有効期間延長取極

平成	元年	十月	六日	ワシントンで
平成	元年	十月	六日	効力発生
平成	元年十二月二十七日			告示

(外務省告示第六三八号)

目次

ページ

米国側書簡.....二四七五

日本側書簡.....二四七七

(アメリカ合衆国の地先沖合における漁業に関する日本国政府とアメリカ合衆国政府との間の協定の有効期間の延長に関する交換公文)

(米国側書簡)

(訳文)

書簡をもって啓上いたします。本長官は、千九百八十七年十一月十日の協定により改正され、かつ、延長された、千九百八十二年九月十日にワシントンで署名されたアメリカ合衆国の地先沖合における漁業に関するアメリカ合衆国政府と日本国政府との間の協定(以下「協定」という。)に言及する光栄を有します。本長官は、更に、協定を、その第十七条の規定に従い、千九百九十一年十二月三十一日まで延長することを提案する光栄を有します。

本長官は、更に、前記の提案が日本国政府にとって受諾し得るものであるときは、この書簡及びこの提案を受諾される閣下の返簡が両国政府の間の合意を構成するものとみなし、その合意が両国政府の間のその後の外交上の公文の交換によって合意される日に効力を生ずることを提案する光栄を有します。

本長官は、以上を申し進めるに際し、ここに重ねて閣下に向かつて敬意を表します。

千九百八十九年十月六日にワシントンで

米国との米国地先沖合漁業協定の有効期間延長取極

Excellency,

I have the honor to refer to the Agreement between the Government of the United States of America and the Government of Japan Concerning Fisheries off the Coasts of the United States of America, signed at Washington on September 10, 1982, as amended and extended by the Agreement of November 10, 1987 (hereinafter referred to as "the Agreement"). I have further the honor to propose that the Agreement be extended until December 31, 1991 in accordance with the provisions of Article XVII thereof.

I have further the honor to propose that if the said proposal is acceptable to the Government of Japan, this Note and your Excellency's Note in reply indicating such acceptance shall be regarded as constituting an agreement between the two Governments, which will enter into force on a date to be agreed upon in a subsequent exchange of diplomatic notes between the two Governments.

Accept, Excellency, the renewed assurances of my highest consideration.

For the Secretary of State:

(U.S. Note)

Washington, October 6, 1989

米国との米国地先沖合漁業協定の有効期間延長取極

国務長官に代わる エドワード・E・ウルフ・ジュニア

日本国大使 松永信雄閣下

二四七六

(Signed) Edward E. Wolfe Jr.

His Excellency
Nobuo Matsunaga
Ambassador of Japan

(日本側書簡)

(訳文)

書簡をもって啓上いたします。本使は、本日付けの閣下の次の書簡を受領したことを確認する光栄を有します。

(米 国 側 書 簡)

本使は、更に、日本国政府に代わって前記の提案が日本国政府にとって受諾し得るものであることを確認するとともに、閣下の書簡及びこの書簡が両国政府の間の合意を構成するものとみなし、その合意が両国政府の間のその後の外交上の公文の交換によって合意される日に効力を生ずることに同意する光栄を有します。

本使は、以上を申し進めるに際し、ここに重ねて閣下に向かつて敬意を表します。

千九百八十九年十月六日にワシントンで

日本国大使に代わる 谷内正太郎

国務長官 ジェームズ・A・ベーカー閣下

米 国 と の 米 国 地 先 沖 合 漁 業 協 定 の 有 効 期 間 延 長 取 極

(Japanese Note)

Washington, October 6, 1989

Excellency,

I have the honor to acknowledge the receipt of Your Excellency's Note of today's date, which reads as follows:

"(U.S. Note)"

I have further the honor to confirm on behalf of the Government of Japan that the said proposal is acceptable to the Government of Japan and to agree that Your Excellency's Note and this Note in reply shall be regarded as constituting an agreement between the two Governments, which will enter into force on a date to be agreed upon in a subsequent exchange of diplomatic notes between the two Governments.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

For the Ambassador of Japan:

(Signed) Shotaro Yachi

His Excellency
James A. Baker III
Secretary of State

(参考)

この取極は昭和六十二年十一月十日の協定（昭和六十二年二国間条約集参照）により改正され、かつ、延長された、昭和五十七年九月十日署名の米国との米国地先沖合漁業協定（昭和五十八年二国間条約集及び条約集第三四九一号参照）の有効期間を更に平成三年十二月三十一日まで延長するものである。